

令和2年度 第2回 半田市地域福祉計画推進及び策定委員会

日 時：令和2年10月13日（火）

10：00～

会 場：市役所大会議室（4F）

1 はじめに

2 議事

(1) チャレンジ項目とコラムについて・・・資料1

(2) 第2次計画素案に係る委員提出意見等について・・・資料2

(3) ふくし課題プロジェクトの試行について・・・資料3

(4) 今後の予定について・・・資料4

3 事務連絡

※次回開催予定 日時：令和3年2月9日（火）10時00分～

場所：市役所大会議室（4F）

委員名簿

		氏 名	所 属
1	地域住民	ミシグチ アキヒロ 溝口 昭弘	地区代表者(亀崎)
2	(3名)	オグリ テルオ 小栗 照夫	地区代表者(乙川)
3		ヤマダ タカシ 山田 嵩	地区代表者(青山)
4	社会福祉事業者	モリカワ タケヒコ 森川 武彦	社会福祉法人椎の木福祉会
5	(3名)	タテシ ヨシキ 立石 佳輝	社会福祉法人ダブルエッチジェー
6	(委員長)	ワシノ リンペイ 鷺野 林平	社会福祉法人半田同胞園
7	社会福祉活動者	イマイ トモノ 今井 友乃	NPO法人知多地域成年後見センター
8	(3名)	シモムラ ヒロコ 下村 裕子	NPO法人りんりん(りんごクラブ)
9		シバタ マサト 柴田 将人	愛知県弁護士会(半田市生活困窮自立支援調整会議)
10	事務局(市)	シムラ タカシ 新村 隆	福祉部長
11	(4名)	スギエ シンジ 杉江 慎二	地域福祉課長
12		ナイウ マコト 内藤 誠	地域福祉課
13		タケノコシ ナツキ 竹之越 夏姫	地域福祉課
14	関係課(市)	マセ ナオト 間瀬 直人	生活援護課長
15	(4名)	サワダ ヨシユキ 沢田 義行	高齢介護課長
16		イトウ ナミ 伊藤 奈美	子育て支援課長
17		ヌマタ マサアキ 沼田 昌明	保健センター事務長
18	事務局(社協)	コサカ カズマサ 小坂 和正	半田市社会福祉協議会 事務局長
19	(3名)	マエヤマ ケンイチ 前山 憲一	半田市社会福祉協議会 事務局次長
20		ナカネ ヤスユキ 中根 靖幸	半田市社会福祉協議会

第 2 次半田市地域福祉計画 チャレンジ項目とコラム

令和 2 年 9 月に第 2 次計画素案 (Ver. 2.0) を各委員宛に送付した後に、コア会議メンバーの発案により、以下の「チャレンジ項目」と「コラム」を計画に掲載することとなりましたのでご報告します。

◆チャレンジ項目

第 2 次半田市地域福祉計画の計画期間 (令和 3 年度～令和 7 年度) において、実現可能性の有無にかかわらずチャレンジしたいと考える先進的取組であって、その取組が実現することで半田市の地域福祉が大きく前進すると考えるもの。

「基本目標 1 ささえあいの地域づくり」のチャレンジ項目

(P28)

- 小学校区コミュニティや自治区等の役員としての福祉委員等設置・組織化
- 地域貢献活動等を行う福祉事業所、企業等の拡充と連携体制整備
- 外国籍市民の地域活動参加の仕組みづくり
- 地域における要配慮者理解のためのふくし共育の実施
- 災害時避難行動要支援者名簿の平常時からの提供先拡大と各支援者の連携体制整備
- 福祉事業所等の地域防災訓練参加促進
- 指定避難所における要配慮者のための災害時福祉スペースの確保

「基本目標 2 包括的・重層的・伴走的な相談支援」のチャレンジ項目

(P31)

- にじいろサポーターと活躍の場をつなげるマッチング・システムの構築
- 福祉事業所等による“断らない”「ふくし相談窓口」の設置・拡充
- 外国籍市民のための生活相談の実施
- 相談支援機関の連携支援事例の検証・研究会の開催
- 地域サロン等のボランティアスタッフ体験を通じた就労準備支援 (生活リズムの安定、コミュニケーション訓練、自信・意欲の醸成等) の実施拡充
- 住宅確保に支援を要する方 (住宅確保要支援者) への支援充実と大家等の理解促進のための「居住支援ガイドブック」の作成・活用
- 住宅確保要配慮者が円滑に入居できる賃貸住宅の拡充
- 入居者の暮らしを見守り、困っているときには手を差し伸べる「見守り大家さん」の育成・拡充
- 公共交通空白地帯におけるコミュニティバスの導入拡大
- 住民に身近な地域での専門職による包括的相談支援事業の実施 (地域住民への周知・利用促進含む。)

「基本目標 3 ふくし人財の確保・育成」のチャレンジ項目

(P33)

- 未就学児（保育園・幼稚園）を対象としたふくし共育の実施（寸劇、紙芝居等）
- 現役で働く世代を対象とした、企業等との協働によるふくし共育の実施（定年退職後の地域活動参加準備、介護離職防止等）
- 企業等で働く方を対象とした、福祉事業所等でのふくし体験イベント・研修の開催
- 福祉事業所間の人事交流促進（合同研修会の開催、職員相互派遣制度の構築等）
- 福祉事業所紹介・就職マッチング等事業の対象者拡大（中高生、日本福祉大学以外の学生、福祉系学科専攻以外の学生等）
- 福祉事業所等への職員採用状況調査の実施
- 福祉事業所等の合同就職説明会の拡充
- 外国人技能実習生（介護職種）の受入研究・検討

「基本目標 4 課題解決の仕組みづくり」に関するチャレンジ項目

(P35)

- 市民団体や福祉事業所等による地域福祉課題の解決に向けた研究発表会の開催

◆コラム

P20


 コラム
①

“地域福祉の原点”が120年前の半田市に!?
日本初、日本最大級の民営弱者救済施設「榊原弱者救済所」

明治終期から昭和初期にかけて、今の半田市鶯根町の丘に「榊原弱者救済所」がありました。ここで暮らしたのは、孤児、障がい者、重病者、出獄者、不幸な身の上の女性など、みんな社会から捨てられた、立場の弱い人たちです。

救済所の主宰者は、榊原亀三郎。若い頃は暴れん坊で侠客の道に入ったこともありましたが、30歳の時に心を改めると、鶯根の丘に“新しい村”をつくり、30年にわたって1万5千人もの社会的弱者を救いました。

年齢や性別、生い立ち、身分、境遇などで相手を差別することなく、様々な困窮者を受け入れ続けたその姿勢は、まさに“地域福祉の原点”ともいうべきものです。

今もなお、鶯根地区を始め、半田市内に福祉事業所が集積しているのは、亀三郎の“高く尊い意志”が生き続けてきた結果とも言えるかもしれません。



P28


 コラム
②

障がいのある方も“防災・減災の推進”に貢献

全国各地で大規模な自然災害が発生していますが、半田市も巨大地震や豪雨により被災する危険性が高いと言われています。

東南海地震や伊勢湾台風等の過去の災害を教訓に、防災活動や避難所訓練に尽力されている地域住民は少なくありません。そんな中で、障がいのある方々もそれらの活動に参加され、災害時に支援・配慮を要する方の立場に立った助言を行って来ています。何でもない段差が車いすを利用されている方にとっては大きなバリアになってしまう…というように、実際に体験してみないと分からないことがたくさんあることに気付かされます。

いつかは半田市にも必ず来ると言われている大規模災害。大難が小難に、小難が無難になるように防災・減災の準備を進めていきたいものです。



P31

コラム

③

✎ 小学校が相談支援の拠点に?!

宮池小学校のコミュニティスクール活動の一環として、『宮池小学校区なんでも相談窓口』が開設されました。これは同小の学校運営協議会が中心となり活動されているもので、LINE アプリを活用した相談窓口や、教室の一部を利用した「小さな困りごとでも気軽に相談できる場」をつくる取組です。

困っていてもなかなか相談につながらない方、困っていることを人に知られたくない方、どこに相談に行ったらいいかわからない方など、支援につながらないとますます深刻な事態になってしまうことも・・・。

そのようなことにならないよう、誰もが安心して気軽に相談でき、必要に応じて専門の支援員へとつなぎ、困りごとの解決支援を行いたいとのことです。



P32

コラム

④

✎ 防災訓練から「ふくし」を学ぶ!



令和元年11月、半田中学校を避難所とする防災訓練（半田市総合防災訓練）では、中学生が近所に住む高齢者のお宅を訪問し、高齢者の生活状況や災害への備えなどを聞き取り、防災訓練への参加の呼びかけを行いました。

訓練後の振り返りや中学生へのアンケートから、「自分たちが生活する地域には高齢者や子どもなど多くの住民がいること」、「日頃から顔を見知っていることが有事の際の行動につながること」、「平時や災害時に自分たちができること」などについて学んでもらえた様子が見られました。防災訓練や災害という視点から、地域のつながり・日頃のささえあいの必要性を感じ取ってくれたようです。

P34

コラム

⑤

半田市の「ふくし」がピンチ！

福祉といえば、「優しい、共助」等のイメージがある一方で「低賃金、大変」等、ネガティブに考える方もいらっしゃいます。現在の半田市の福祉を支える現場（福祉事業所や地域）では、人手・担い手不足が課題となっています。

課題を解消するべく、行政と市内福祉事業所が協働をして令和元年度に「ウェルフェアワークス」※・「介護・ささえあい活動人材フォーラム」※を開催しました。参加事業所同士も交流ができ、事業所の実情や知らない分野・職種等の理解が深まりました。今後も継続的に開催し、外国人や復職希望者等にも参加いただける内容にしていきたいと検討しています。

また、これまで“全ての市民の「ふだんのくらしのしあわせ」の実現”のため、「ふくし共育」をはじめとした事業を実施してきました。「ふくし」が確実に市民に浸透してきていますが、今後はさらなる普及のために未就学児や現役で働いていらっしゃる万等の幅広い世代への働きかけにも取り組んでいきます。

※ウェルフェアワークス

大学生向けの福祉事業所紹介イベント。（福）椎の木福祉会・（福）ダブルエッチジャー・（福）半田市社会福祉協議会・（株）エヌエフユー・半田市地域福祉課の共催で実施。

※介護・ささえあい活動人材フォーラム

介護事業所紹介・地域のささえあい活動紹介イベント。半田市高齢介護課が主催し、介護事業所・地域活動団体の協力を得て実施。

P36

コラム

⑥

雑巾♡ちくちくプロジェクト

『雑巾♡ちくちくプロジェクト』とは、令和元年の豪雨災害（台風19号）に遭われた長野県等のみなさんにお届けするタオル集めをきっかけにはじまった活動です。日本福祉大学等が中心となって集めた古タオルは約2万枚。これを被災された方々の泥出し作業等に使うよう雑巾に加工しました。

水害に遭われて苦労されている方々に思いを寄せ、防災・減災について話し合いながら、地域住民のみなさんが毎日「心を込めて“ちくちく”」手縫いしていただきました。

障がいのある方々やデイサービス事業所に通所されている高齢の方々、そして子どもたちもこのプロジェクトに協力してくれました。

令和2年も九州はじめ全国各地の豪雨災害被災地に、この雑巾をお届けしています。



コラム

⑦

✎ “もったいない”を“ありがとう”に！✎

半田市社協では、『フードドライブ事業』を行っています。これは、賞味期限まで1か月程度の食材を地域住民のみなさんや企業・商店等からご提供いただき、フードロス問題への対応と子ども食堂等への支援を目的に活用しようという取組です。✎

2020年はコロナ禍により経済的なダメージを負われた方々の✎
支援にも有効活用させていただくことができました。✎

これからも「もったいない」を“ありがとう”に！」を合✎
言葉に、この活動を継続していきたいと思っています。✎



第2次計画素案に係る委員提出意見等について

項番	委員提出意見等	対応
1	「第2次半田市地域福祉計画とSDGs」について はじめて出てきたと思います。「 <u>地域福祉計画</u> 」と「SDGs」の関連性は？	SDGsとは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、平成27年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」のことですが、市の全庁的方針として、計画は全てSDGsを意識したものとし、SDGsのアイコン表示等を行うこととされたため、本計画にもSDGsについて追記することとしました。SDGsに掲げる目標も本計画の目標も方向性は同じのため、本計画の施策はSDGsの目標達成に資するものと考えています。
2	<u>策定の趣旨にも「新たな課題にも果敢に挑戦していくことを目指す」とありますが、それはどのように表現されているか？</u> <u>伝わるか？</u>	策定趣旨の当該箇所は、基本目標4「課題解決の仕組みづくり」を念頭に記載したものです。第4章及び第5章で表現していますが、これから計画を実行していくにあたり、実際の取組でお示ししていきたいと考えています。
3	2頁の「 <u>計画の位置付け</u> 」の図について「 <u>第7次半田市総合計画</u> 」の位置が左横で <u>いいのか？</u> それぞれの計画の位置、関係性が明確にならないのではないか？	先ず、地域福祉計画と各個別計画との関係性については、平成29年12月の厚労省局長通知により、地域福祉計画には各福祉分野が共通して取り組むべき事項を記載し、各個別計画との調和を図り、連携を確保して策定する必要があるとされたことから、地域福祉計画に各個別計画をぶら下げるといよりも、各個別計画の土台となるようなことをイメージし、原案のような配置としました。次に、地域福祉計画と各個別計画の関係性を上記のように捉えたとき、図上の配置として、これらの上部に総合計画を位置させると、それぞれの関係性が逆に分かりづらくなると考え、総合計画も原案のような配置としました。県内他市(岡崎市・岩倉市)も同様の配置としており、特に誤解を

		与えるおそれはないと考えています。
4	9頁のR1の「療育手帳」の数字が「表」は「991」となっているが、グラフは「965」となっている。	グラフに誤りがありましたので修正しました。
5	10頁のグラフの年度の順番が他の頁の順番と違う。他は上から古い年度であるが、「子どもの人口推移」のみ、上から新しい年度になっている。	「子どもの人口推移」のグラフについて、年度の表示順列を修正しました。
6	23頁の「基本目標の概念図」の説明が必要ではないか。22頁と24頁の説明でイメージしてもらえますでしょうか？	「基本目標の概念図」に説明を追記することとしました。
7	お助け隊について、困ったときには「お助け隊」があること及び連絡先などを知らない住民が多いのではないかと思います。積極的に市報などで広報した方が良い。一人暮らしの高齢者が多く買い物に苦労しておりサロン等で野菜を持ち寄り安く販売したところ喜ばれている。	お助け隊については定期的に市報でPRしていますが、引き続き周知に努めます。サロン等での野菜などの販売については、岩滑や有脇の地域ふれあい施設でも実施しており、好評であると伺っています。
8	基本目標1のささえあいの地域づくりの中の(2)防災・減災の推進に関して、こと②に関しての進捗が気になります。福祉避難所に関しては以前のように協定を結んで終わりになるようでは機能することなく、連携も取れないと思います。	本年10月より、基本目標4・推進施策(1)・取組①「ふくし課題プロジェクト」の試行運用として、「福祉避難所等体制整備のさらなる具体化」をテーマに課題整理と対策検討に取り組むこととしています。
9	P29(1)一①地域の身近な「ふくし相談窓口」等の拡充。ふくし相談窓口が、「小学校区に一つ」などの具体的な数字は？評価指標に挙げるとかはできないか？	これまで半田市では、ふくし相談窓口を①「にじいろサポーター養成講座を受講したスタッフがいて、関係機関へ繋ぐことのできる拠点(サロン等)」と②「専門相談員が地域住民の相談を受け、関係機関へ繋ぐことのできる拠点(おつかわハウス等)」の二種類あるものとして整理してきました。①については、前回委員会で実績報告しましたとおり、令和元年度に全ての小学校区に整備することができたところです。②については、①との整理を図る中で、より広域の地域展開を進める

		こととなりますが、今回の計画では、機能面の充実を重視し、基本目標2のチャレンジ項目に「住民に身近な地域での専門職による包括的相談支援事業の実施」を記載することとし、アウトリーチ等を通じた継続的な相談支援に取り組みたいと考えています。また、同様に「福祉事業所等による“断らない”「ふくし相談窓口」の設置・拡充」も進めてまいります。
10	P32①ふくし共育を幅広い世代を対象に実践する→ <u>評価指標に小中高以外でも取り組むという目標を入れたい。幼児期、商工会議所などの民間事業所(新人教育等)。</u>	関係機関との調整も必要のため、基本目標3のチャレンジ項目として「未就学児(保育園・幼稚園)を対象としたふくし共育の実施(寸劇、紙芝居等)」と「現役で働く世代を対象とした、企業等との協働によるふくし共育の実施(定年退職後の地域活動参加準備、介護離職防止等)」を記載することとしました。
11	<u>地域福祉の担い手育成…防災教育とのコラボ、連携を明記できないか？</u>	基本目標1のチャレンジ項目に「地域における要配慮者理解のためのふくし共育の実施」を記載することとしました。
12	私は板山地区の住民ですので地域の概況、課題については関心があります。特に市内では高齢者世帯が一番多いとなっている。その為認知症対策として学校では子ども(孫)向けの勉強会、老人会などではすでに実施している。板山地区は3世帯の家庭も多く見られるので <u>若い世代にも認知症の勉強会を実施したらどうか</u> とも思う。15歳以下の若者が一番低い将来を支える担い手不足を懸念されるが板山全体で考えることであり、地域に合った対策をとることが大切であると思う。	板山小学校では、毎年4年生を対象にふくし共育として「認知症キッズサポーター養成講座」を開催しています。なお、基本目標3・推進施策(1)取組①「ふくし理解の促進」に「『ふくし共育』を幅広い世代を対象に実践する」と記載しており、今後、ふくし共育の対象者拡大を図ってまいります。また、市の出前講座や、ふくし勉強会などを企画することも可能ですのでご協力いただけたらと思います。
13	33頁の「推進施策(2)」介護人材等の確保支援の文章の2行目の「 <u>近い将来、福祉事業所で働く介護人材等の不足することが危惧されています。</u> 」が個人的には読みづらい。「近い将来、福祉事業所で働く介	「近い将来」は、動詞「不足する」に係る語句であるため、ご提案の前者(名詞「不足」)の場合は文の繋がりが適さなくなるおそれが生じます。また、ご提案の後者の場合は助詞「が」が連続することと

	<p>護人材等の不足することが危惧されています。」または、「近い将来、福祉事務所で働く介護人材等が不足することが危惧されています。」の方が個人的には読みやすい。</p>	<p>なります。助詞「が」の連続を避け、原案のままといきたい。</p>
14	<p>基本目標3のふくし人財の確保・育成の中の(2)介護人材等の確保支援に関して、福祉大学などとの連携と記載があるが、福祉大学は地方からの学生も多く、大学としては地元での就職を推奨しているので愛知の学生が就職するように県内の<u>他大学にしっかりと焦点を当てるべきか</u>と。<u>福祉学部ではない学生の福祉人材への登用も重要だと感じるため、紹介とマッチングだけでは弱い気がしています。訴えかけるものが<u>必要</u>ではないか。</u></p>	<p>基本目標3のチャレンジ項目として、「福祉事業所紹介・就職マッチング等事業の対象者拡大(中高生、日本福祉大学以外の学生、福祉系学科専攻以外の学生等)」を記載することとしました。「訴えかけるもの」については事業実施段階で検討してまいりたい。</p>
15	<p>33 頁の「<u>推進施策(2)</u>」の<u>評価指標</u>の必要性はあるかないか？</p>	<p>評価指標は、各目標に関し、それぞれ代表的な取組について掲げることとし、基本目標3「ふくし人財の確保・育成」は、半田市の重点的な取組と考えるふくし共育について指標化することとしました。なお、評価指標であるか否かを問わず、毎年の取組状況・実績報告は委員会へ報告いたします。</p>
16	<p>P33①<u>介護人材の確保…外国人を人材として育てていく、あるいは、<u>介護技能実習生の受入推進等は入れていかないのか</u>？</u></p>	<p>基本目標3のチャレンジ項目に「外国人技能実習生(介護職種)の受入研究・検討」を記載することとしました。</p>
17	<p>35 頁の「<u>課題解決の仕組みづくり</u>」において、<u>明確な「課題」をあげることはできないか</u>？</p>	<p>課題は、主にチャレンジ項目に掲げた事項で関係機関による協議調整の必要なものが候補になると考えています。また、課題は、毎年、次年度に取り上げるテーマ(案)をコア会議で協議の上、委員会に諮り決定する予定です。検討結果も委員会へ報告します。</p>
18	<p>54 頁からの「<u>地域の概況・課題等</u>」の資料は地域性が明確になる資料です。いい資料だと思います。<u>各地域を一度に比較できる資料があるといい</u>と思う。</p>	<p>参考資料として一覧表を付することとしました。</p>

19	市民アンケート調査の間 20「 <u>半田市地域福祉計画</u> をご存知ですか」の回答で「聞いたこともない」という割合が多いので、少しでも周知し、知ってもらえたらいいと思う。	今後も引き続き、周知に努めます。
20	どこにも、 <u>外国人</u> 、あるいは <u>民間</u> などはことばとして出てこないが、これから先の地域福祉を考えるには、外せない部分と考える。	「外国人」については、第2章・第2節「市民意識調査等から見た状況」の中で地域住民から「外国人の増加に伴うトラブル」を懸念する声のあったことや、第5章・基本目標1・推進施策(2)「防災・減災の推進」の中で「・・・外国人等避難行動や避難所生活に支援・配慮を要する方・・・」として触れておりましたが、さらに踏み込んで記載することとし、基本目標1及び基本目標2のチャレンジ項目として「外国籍市民の地域活動参加の仕組みづくり」及び「外国籍市民のための生活相談の実施」を掲げることとしました。また、「民間(企業等)」については、語句こそ用いていませんが、随所に記載の「関係機関」に含まれるものとして扱っていました。しかしこちらもさらに踏み込むこととし、基本目標1及び基本目標3のチャレンジ項目として「地域貢献活動等を行う福祉事業所、企業等の拡充と連携体制整備」、「現役で働く世代を対象とした、企業等との協働によるふくし共育の実施」及び「企業等で働く方を対象とした、福祉事業所等でのふくし体験イベント・研修の開催」を掲げることとしました。
21	<u>誰に向けての計画か？</u>	この計画に関わる全ての地域住民・市・社協・関係機関を対象としていますが、国の方針により平成27年4月施行の生活困窮者自立支援法に係る支援方策を地域福祉計画に盛り込むこととなったことや、平成29年12月の厚労省局長通知に基づき、自殺・ひきこもり・虐待など複雑化・深刻化する課題に対する専門的

		相談支援に関することを盛り込んだことにより、若干行政等の取組に関する記載部分が増えています。
22	<u>全体的に表現、ことばが固いのでは？</u> 敢えてそうしている？	他市町の地域福祉計画や本市の他の計画等の記載を参考に当計画案を作成しました。いただいた意見は今後の参考とさせていただきます。
23	<u>作業部会のレポートや話し合いは生かされているか？</u>	「推進施策」や「主な取組」の欄は、様々な事項を包括した、方向性や理念的な記載となっている部分もありますが、今回、チャレンジ項目を追記したことにより、作業部会で議論されたことを含め、個別具体的な取組も盛り込むことができたと考えています。
24	計画素案確認しました。丁寧にまとめていただきありがとうございました。防災部会に関わらせていただき、縦割りではなく、課や事業所をこえた横のつながりやチームの必要性を改めて感じました。例えば防災であれば、防災交通課、地域福祉課、高齢介護課、地域住民、学校、高齢事業所、障がい事業所などなどが協力して、避難所(福祉避難所)の在り方などを具体的に検討していく場が必要だと感じました。全体の方針である地域福祉計画の計画上に位置付けるのは難しいかと思いますが、 <u>この計画のそれぞれの詳細をどこがリーダーシップをとって進めるかなどが決まっていると良い</u> と思いました。	今回はそのような作りを意図しておりませんでした。今後の参考とさせていただきます。

ふくし課題プロジェクトの試行について

第2次計画(案)の基本目標4に掲げる「ふくし課題プロジェクト」について、令和3年度からの本格運用に向けた試行運用を行います。

1. ふくし課題プロジェクト概略

社会情勢の変化等により生じる新たな課題や従来から課題と認識していながら未だ有効な対応策が確立できていないものについて、市民・行政・社協・関係機関等からメンバーを選定してプロジェクトチームを結成し、検討会議を重ねて課題解決の仕組みづくりを行うもの。

- ①プロジェクトは、福祉的な課題等に係る関係者間の協議調整の様々な枠組み（フレーム）の一つ。
- ②プロジェクトに位置付ける案件は、原則として地域福祉課が事務局機能を担い検討会議を開催し、検討結果を地域福祉計画推進委員会へ報告する。
- ③プロジェクトでの検討は、基本的に課題解決の仕組みづくりまでとする。
- ④プロジェクト案件1件に係る検討期間は基本的に1か年度以内とする。

2. 試行運用について（案）

期 間 令和2年10月～令和3年3月（6か月間以内）

案 件 福祉避難所等体制整備のさらなる具体化

		令和元年度												
平成30年度		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
策定工程	策定体制構築 ⇒ ⇒ 課題整理・現状分析・対策検討 ⇒ ⇒ ⇒ 体系化 ⇒ ⇒ ⇒													
イベント														・市民アンケート ⇒ ⇒ ⇒
作業部会 (5部会)				立上げ	課題整理	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	現状分析	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
コア会議 (市担当者・社協)				○				○				○		
庁内検討会議 (市課長)														
(市)推進・策定 委員会				○ 5/30(木) 10:00～									○ 2/5(水) 13:30～	
備考														第1次計画 評価報告 ⇒ ⇒ ⇒

